

助け合いの連携プレー

豊浦中 一年

鈴木

颯人

ぼくは、東日本大震災がおこったとき、まだ幼稚園の年長でした。あの時は、なにもしななかつた。たの状況が理解できないまま終わりました。後からその時の話を聞いて色々の方が、がんばってください。だから今の生活が出来てくるんだというふうに感じました。その中で、話を聞いていて当時のことの記憶がよみがえったこととを二つ紹介します。

一つ目は、公園で見た水のバトンリレーです。水道が止まってしまったことで水が無くなり、最後の手段の地下水を使うことになっていました。その時に、大人の人が一列に並んで、バケツをまわして、トラックにつむ作業をしていました。そのことを見ていた当時のぼくは、「さすがー」と思っていたことをおもいだししました。

二つ目は、かわらのてっぴん作業についでです。実は、ぼくの家でもかわらが多く落ち

たそうです。その時に、かわら屋さんが来るまで、地域の人に手伝ってもらったそうです。作業中は見ていませんでした。かわら落ちて、車のフロントガラスがこぼれなくなった。移動手段が無くなった。ぼくたちも見て、近所の方が、うちの方に乗ります。と言ってくださり、乗せてもらった。ことを思い出しました。その時のぼくは、恐怖でいっぱいだったけれど、少し心が軽くなっていたと思います。

最後に、ぼくが見ていない海岸のほうでは、震災が終わって少したつたころも津波のせい、復興がおくれていたと言います。そんな中、自分の家が助かった。たがらうという。自己中心的な人は少なく、地域をみんなで救おうというやさしい心を持った良い人たち。たくさんいたということも聞きました。最近、地球温暖化のせいで、暴風や豪雨が日本各地で起こっています。もし、市内で、なにが災害があったら少しでも手助

けが、できるような人になって、それで、気持ち  
ちや命を救えるようになったら、もっとかっ  
こいい人かなあと思います。まだ、人たやや  
しく、ふだんから地域の人と仲良くできるよ  
うに努力して、楽しく、平和に暮らしていき  
たいなあと思います。それが叶ったら町のめ  
んなも国のみんなも、世界のみんなもまっ  
と楽しく暮らせるようになると思います。